

出羽三山月山東南エリア（西川口）、西川町本道寺を基点とする「高清水通り」と同町岩根沢を基点とする「清川道」という二つの出羽三山有史以来の登拝古道（総称して「高・清フレンドリー古道」）域に係る史跡等調査&登山道整備活動を推進している T・K-Friends という有志グループがある。

この度、初めての試みとして西川町地域おこし協力隊（インターン含む）への協力願いを踏まえた協働（共同）の機会があった。具体的には 2025(R7)年 9 月 15（月）～16 日（火）の 1 泊 2 日（清川行人小屋泊）で実施した。この活動について、往古の参詣道に点在する史跡学習、山小屋コミュニケーションを通じた人間関係融和の法則、非日常的な山岳地帯での汗を流す労働と達成感の体得を目指す人生学びの時空にしたいと思い、本活動のキーワード「学びと遊びと労働」の 3 点セットをもじって、M（manabi）A（asobi）R（roudu）→MAR→『丸・○・円環・サークル／対等互啓（恵）の融和』と名称付けることとした。

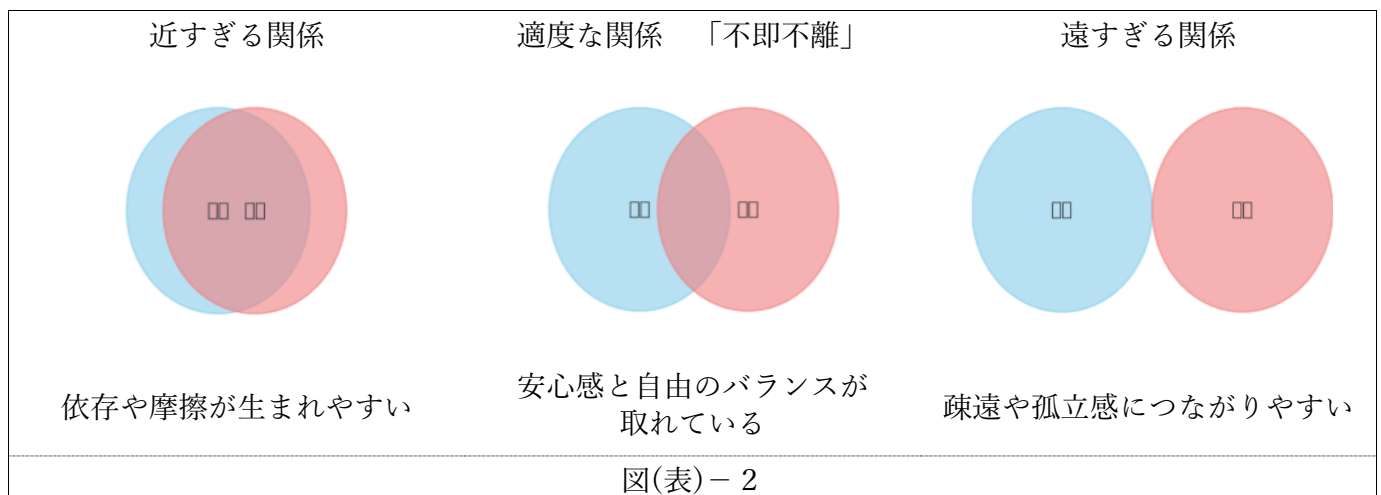
さて、「MAR」に込めた思い（深層）について少し付加して見る。

私は『人生、最大のストレス要因は人間（対人）関係である。』と思っている。「円満・融和・協調・和合・友好・きずな・・・」はとっても響きの良い言葉である。一方で、「ベッタリ・抱っこ」のイメージを持つ。そこで ChatGPT に対し、「愛情が強い関係ほど、すれ違いがあった時の憎悪は何百も激しくなる」というが、心理学上における論理を説明してください。」と問いかけた処、図(表)－1 のような回答があった。なお、Gemini の回答も同様であった。

心理学的に言えば、「愛情の強さ = 信頼・期待・自己同一化の深さ」であり、それが裏切られると、自己の基盤を揺るがす不協和 → 強烈な憎悪に転換する。そのような構造から「強い愛は、強い憎しみに変容し得る」となる。それは、人間の愛憎感情エネルギーは表裏一体だから、というのが心理学上の論理である。

図(表)－ 1

そんなことから、良好な対人関係を維持するためには「ベタベタするな、適度な間合いを取る」という人生訓が数多溢れている。そこで、「対人関係の距離感」をキーワードに ChatGPT に回答させた処、図(表)－2 のとおりであった。これは、AI に言わせるまでもなく、いわゆる「付かず、離れず」は、往古よりの当り前の理屈ではあるが。



図(表)－ 2

そこで、「不即不離」（付かず、離れず）を私の切り口でイメージ図化したのが図-3である。人間には建前と本音、表と裏があり、喜怒哀楽は乱高下し、定まらないのが生れ付きの本性である。元々の本性がそのような人間において“円満・和合の対人関係を”と叫んでもままならぬのが生身の人間社会である。この関係性を適切に表現すると思われる動きにを「円運動≒単振動≒正弦波」（同値同相）の関係性で表し、それぞれの形は違えども本質は同じ運動（活動）という見方である。

一見、あの二人は、あの仲間は仲がとても良さそうと見えても、そう思っている、ある面では、単振動のとおりで大きく上下に振れるということ、また、正弦波で見れば、緩やかそうではあるが、時々刻々と大きさ（強さ）も方向も位置も変化するということである・・・当たり前である。

逆の見方にすれば、喜怒哀楽の乱高下があっても、本質は円環運動と同値同相なのである。

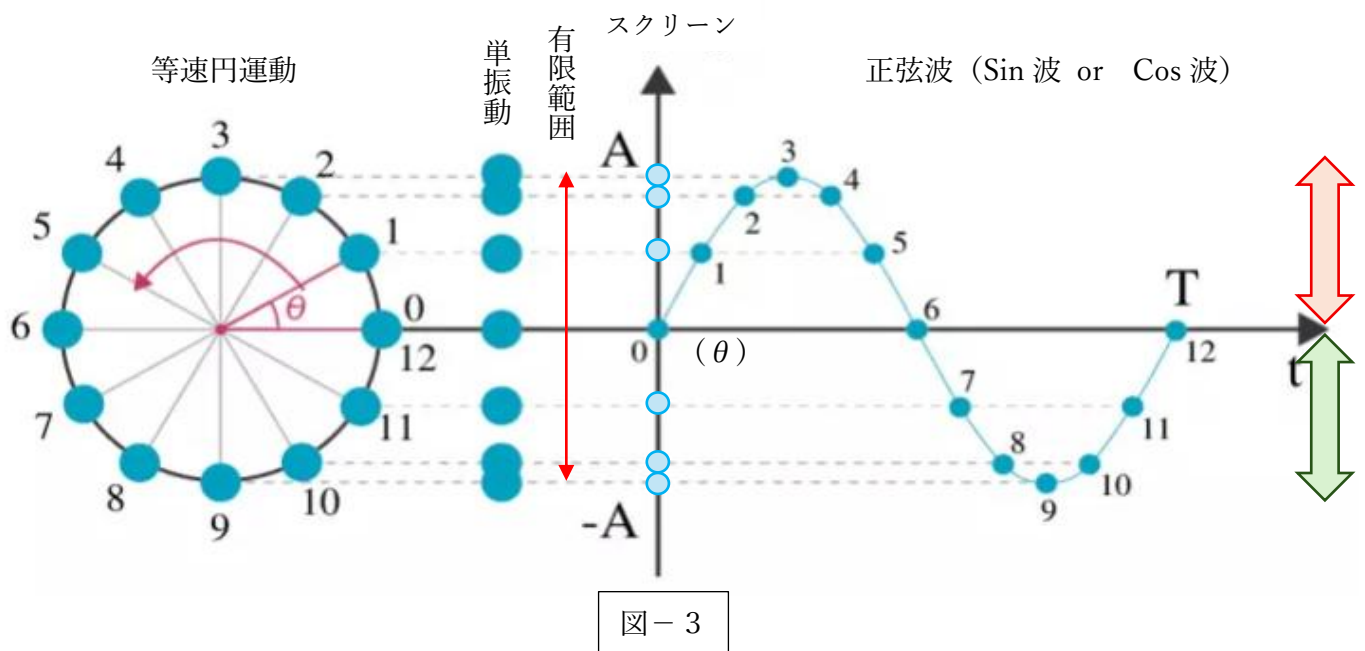


図-3

そこで、問題は、「不即不離」の適度な関係性を以って、円満・和合を維持するための秘訣・具体策は何かということになる。心の本性をきちんと認識し、上下・強弱の起伏を認めた上で、如何にして調和・バランスを求めるかである。その回答は次の2点である。

- ¹ 自己の発信源（思想信条・主義主張）において、偏依・偏波に固執しないこと。（左極から右極まで何でも OK とする）
- ² 対人関係において、人間の総合力に優劣は無いという絶対性に立ち対等互啓（恵）に立脚すること。

日常生活においてこの二つを強く意識すると、元々は単振動・正弦波振動の精神を有する者が相対したことになるが、○¹○²からは華嚴の力が働き、円満・和合を象徴付ける円環運動が自立・自発されるのである。以上を総合した考え方の中に適度な関係「不即不離」が生まれるのである。

ところが、思想信条・主義主張が――日常生活における心の持ちようが、何々党とか、何々宗とかの一点に執着し凝り固まっていると「円運動≒単振動≒正弦波」が成立しなくなるのだ、つまり、必ずや対立や憎悪が発症・発病するのだ。